

# 吉祥院六齋保存会 保存曲目

## 六齋保存曲目(抜粹)

### 吉祥院六齋保存会(南条)保存曲目

約1000年前の京の街に疫病が流行して多くの死者が出た時、人々が不安に陥りました。

そこで空也上人が、托鉢に用いる鉢を叩いて、洛中の街々で南無阿弥陀仏を唱えて廻わり、人々の不安を取り除いたのが六齋の始まりと言われていいます。

吉祥院六齋念仏踊り(菅原組)の伝承曲に「発願」以下、次の曲があります。

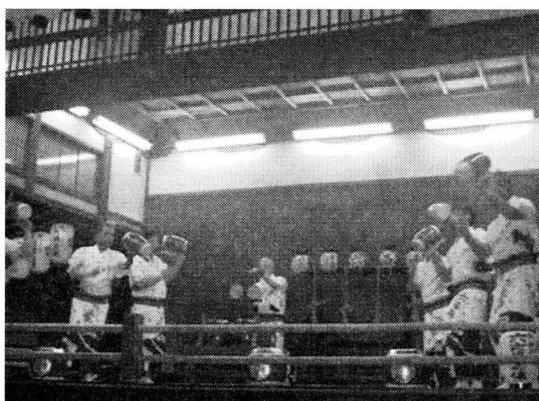
#### ●発願はつがん

六齋念仏の始まりを告げる演目。



#### ●つつて

左右に対向する白ハリ太鼓が上打ち下打ちに分かれて、緩急をつけて叩く。



#### ●お月さん

白ハリを手した八人が四人ずつ左右に分かれ、それぞれ隣り合うものと二人一組になって笛・鉦の囃子で太鼓の踊打ち、曲打ちを見せる曲。二人が交互に主奏するもので祇園祭の月鉦の囃子をとり入れたと伝わる。地一流し→上げなど四段から成っている。はじめゆったり打ちはじめ、しだいにテンポをはやめてゆるやかに打ち納める、白はり太鼓を緩急緩の変化をつけて叩く見事な曲である。一丁鉦、

#### □朝野あさの

中央に大太鼓、その左右に余人ずつ白ハリが並び、大太鼓が主奏し、白ハリがれをはやす太鼓曲。

#### □鉄輪かなわ

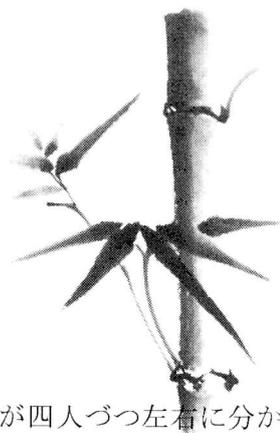
正面奥に二丁鉦、その前方左右に白ハリが



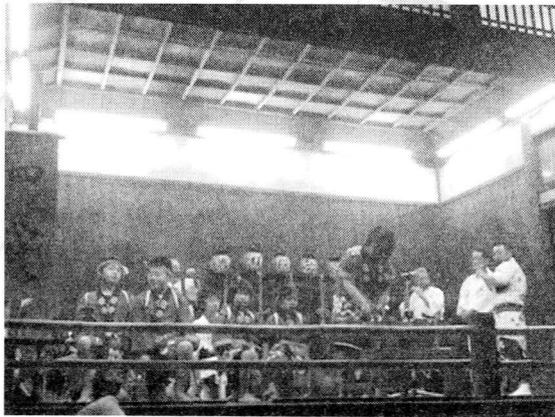
四人ずつ分かれ、隣り合うものと向き合い二人組となって演じる太鼓曲。白ハリを振り回しながら表裏に打ち分ける。二丁鉦、笛ニ～三人、白ハリ八人。

#### □四ツ太鼓

中太鼓四個を枠にはめて中央に据え、太鼓打ちが一人ずつテンポ早く四ツの太鼓を軽妙に打ち分ける太鼓曲。一本ブチと二本ブチがあり、どちらも桴(ばち)を両手に持つが一



本ブチは左肩に桴をかたげ右蜂一本で打つ。二人打ちもある。年齢の低いものから順々に出て交替して打っていく。はじめは一人約五十秒、年齢が増ごとにだんだんデンポがはやくなり同じ曲繰り返す。太鼓を六個に増やし「六ツ太鼓」演じ、又、二人が向き合って相打ちを見せる。



#### □安達ヶ原

修行僧二人が歌に見るような光景を手踊りで見せる芸物。鉦・笛・太鼓のはやしがつき、太鼓が歌の意をブチ打ちで表現する。見てはいけないと言われれば、見てみたいと思う人の心理の物語である。



歌♪ 諸国修行のたびしよじゃが（旅僧）、道のちまたで踏み迷い、はるか向うを見わたせば、ありがと（在所）見えし火の光（暗夜に見ゆる火の光）なんでもあれにたよらんと、チンチキ チンチン ドンドン 思うところにかけぬれば（駆）、戸のすきまよりさしのぞく、なかにはばばさんただ一人、よどの（淀）糸屋の糸車（財の伏見の糸車）ブウブウ ブウブウ ブウ もしもしおばさん、諸国修行のたびしよじゃが 道のち

またで踏み迷い、はなはだ難儀（渋）いたします。一夜の宿を貸したもれ、それはおやすいことなれど、なにをいうても婆一人、なんにもおわするものはなし、もうしもうしご出家さん、あれなる納戸（は婆が居間 必ず納戸を）あけるなど、いうてお婆は谷川へ、チンチキチンチン ドン ドン ドン。あれなる納戸をあけたなら、てっきりおむずび違いない（あけなどは、テッキリ娘に違いない）、おいよ（折よく）こちょこちょせしめんと、納戸あければこわいかい、またこちらにこわいかい、こわいかい（あちらが方には腕がある。又こちらにはが股がある）（音に聞いたる）安達ヶ原の一つ宿、ふそう（愚僧）もここでねんねんしたら、上から大きな石が落ち、婆さんもどって食うである、もどらん先にと出てもれば、にわかに一たさしくもり、さしくもり、なおさすおう夕立（車輪を流す大夕立）袈婆も衣もふところへ（畦道さして）チンチキチンチン ドン ドン ドン

#### □玉川

演者の位置・構成が「鉄輪かなわ」と同じ太鼓曲。笛の変化が美しい曲で、表打と裏打の掛合いが変化に富み面白い。

#### □白ハリ八人（ないし六人）

「鉄輪」と同様の太鼓曲。隣り合う者が二人一組となり、一人が表（客席に近い方）、一人が裏になって、表裏で掛合う太鼓曲。はじめ一人打ちのところがある。

#### □大文字



中央で大太鼓を叩き、まわりを中太鼓が右回りに芸打ちや頭の後ろで芸打す太鼓曲。大太鼓が全員をあやつるように太鼓を打つのが

特徴。菅原組が古来もっとも得意とする大表曲の一つで、「大文字屋の番頭でサイジチ頭の伝吉が、出家の娘お初に惚れて、これを仲間の男どもがはやしたてる下町の風景を表した」ものと伝え、歌の一部が残されている。いわゆるサイジチ頭の者を「大文字屋」といいならわしていたといわれる。

### □祇園囃

いわゆる祇園祭の囃子によって中太鼓が踊り打ちを演じる曲で、はじめ・ながし・上げの三段から成る。一丁鉦四個を吊った枠を正面奥に出し（鉦方四人がこれを打つ）、その鉦と笛が賑やかに囃すのに合わせて、対向する二人が所作をまじえていると中太鼓を打ちめぐるが、ながしの時は敵宜人が入れかわり、また動化も登場する（現在省略）という賑やかな曲である。祇園祭の月鉦の囃子を取り入れたものといわれている。

### □岩見重太郎



物の怪（猿に変わる）が現れ、剣豪の岩見重太郎がヒヒ退治を演じる芸物で鉦・太鼓・笛のはやしがつく。1. 妖怪変化の地舞。2. 妖怪変化と岩見重太郎の立ち廻り。3. ヒヒ（猿）と岩見重太郎の立ち廻り。三段から成り、2. で「さては妖怪変化であったよな。いで岩見重太郎兼介がヤ退治してくれん」のセリフが入る。重太郎が出ると、物かげから変化が飛びかかり、両者の立ち廻りとなる。ややあって変化敗れて退散し、変わって猿（ヒヒ）登場し再び両者の立ち廻りがあって、重太郎の追い込みで終了する。昔は猿を追い廻して「何の逃がしてなるものか」のセリフをもって終わったという。



### はごろも □羽衣

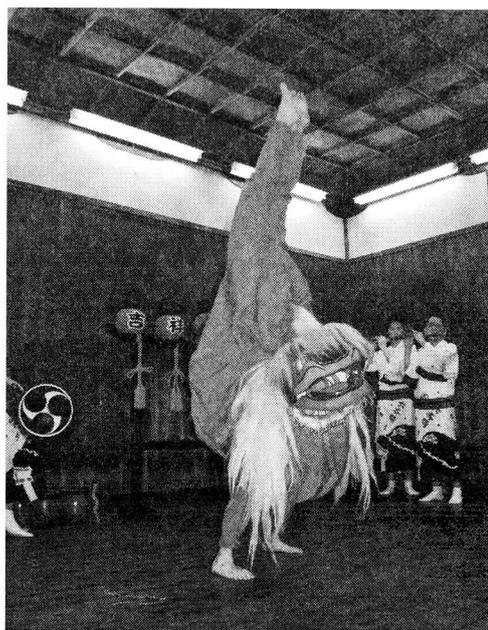
白ハリが客席に向って並び、表裏になって演じる太鼓曲。テンポがもっとも遠く、それを交互に打ち分けるブチさばきが見どころとなる早打ち曲で、難曲の一つとされ、神打ちと称する上手な者しかやれぬ曲であった。羽衣伝説一天女の生い立ち・下降・天上来るを表すものと伝える。

### □獅子太鼓

次曲「獅子舞」の前奏曲で、中太鼓四人が太鼓の打合いを見せ、終わると大太鼓が入って獅子を呼び出す。

### □獅子舞

二人立ちの獅子舞で、大太鼓のはやしで登場、種々獅子舞を演じるもの。地廻り（道行）以下、後足立・前足立（尾が上になる）・獅子返り（回転）・肩立ち・孔雀（腰に肩をのせて立つ）などの曲芸やノミとりなどの所作があり、碁盤乗りも演じられる。これが終わると獅子はその場に眠り、次曲「獅子と土蜘蛛」に続く。



## □獅子と土蜘蛛

獅子が入るとほどなく土蜘蛛が現れて獅子にたわむれ、やがて鬪争となり、獅子がついに敗れるかたちで終了する。蜘蛛の巣（セイと呼ぶ）を豪勢に蒔くところが見どころとされている。尚、獅子と土蜘蛛を演じるようになったのは、大二次大戦後のことであり、それまでは「和唐内」を本曲としていた。つまり、獅子太鼓—獅子舞—和唐内が一連の曲となっていたのであり、そこに菅原組の独自性もあったのだが、演出面で時代にそぐわないところがあって、このように改められたという。



## わとうない □和唐内

和唐内が兵三人、ついで呼び出された獅子（眠っている）と立ち廻りの末それを屈服させ、引具して都に帰るさまを演じるという芸物である。鉦・笛・太鼓の囃子が付き、セリフが入る。保存会が近時まとめたその台本は次の通り。

1. 獅子地舞、2. 和唐内・獅子格闘、3. 和唐内勝つ和唐内「我こそは日本和唐内、行けども行けども山の中、イヤ、ただしわ者の仕業なるか、はて心得の遠音に響く、貝・鉦・太鼓、我を取り巻く合図のしるし、イヤ、何わこしゃくなるか」和唐内、兵A・B・Cと立ち廻りする。

兵A：「ヤ、ヤ、ヤ」

兵B：「ヤ、ヤ、ヤ」

兵C：「ヤ、ヤ、ヤ」

兵ABC：「これはかなわん、獅子呼べ、呼べ、呼べ」和唐内「いかなる猛気、猛獣なるとも、いで此の御礼で押さえてくれる」

和唐内：獅子と立ち廻りをする。獅子和唐内に

押さえられる。

兵ABC：「ダッタン国へ献上ノ獅子を取る事、ならぬならぬならぬ」

和唐内：「例え献立の獅子にもせよ、和唐内がかみ取りしこの獅子、己れ等如き者に渡せよか、正してからにからめて見せよ」

兵ABC：「何としよう」

和唐内：「己れ等三人、よく良い顔だ、和唐内の味方につけば良し、付かねば一人一人踏み殺そう、イヤ・サ・サアサ、返答はどうじや」

和唐内：「付けば其の儘おかれうまい、一人一人名前をやろう」

兵ABC：「名前を貰う、名前を貰う、名前を貰う」

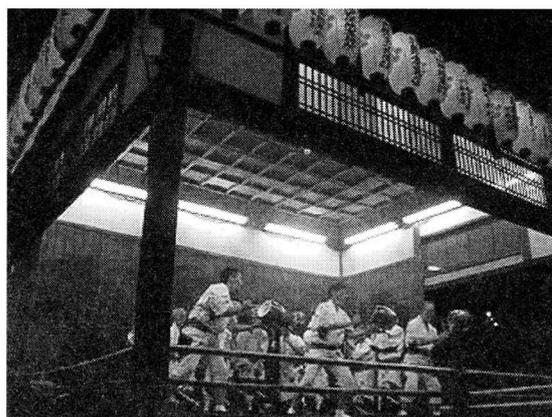
和唐内：「雲水六郎、寸吉九郎、後なる者はジャガルタ兵衛」「良くは此れより獅子を勇めて、都へ出立、都へ出立、都へ出立」笛・鉦・太鼓の囃子で終了。

## えこうた □回向唄

結願の念仏曲で、「かんにしくどう（順以此功德）トコトントン」と鉦・太鼓を打って納めるものである。

以上、発願にはじまり、回向願に終わるのが一山打本来のあり方である。上演の都合上、獅子太鼓の前に演じられることが多い。

現在、一山打はあまり行われず、たいていは所定の演奏時間に合わせて、適宜何曲かを選んでプログラムを編成する例となっており、そのため、念仏曲をみる機会は乏しくなっている。特別曲とされてきた「焼香太鼓」の場合は、さらに一般に知られない存在となっている。しかし、この曲は、吉祥院六斎の根源曲ともみなされる念仏曲である。



## 吉祥院六齋念仏踊りの南条(菅原組)以外の講の曲目を紹介



ひがしんじょ

### 東条

曲目／発願、邯鄲夢の枕、石橋、三恋慕、祇園囃子、四ツ太鼓、土蜘蛛、安達ヶ原、橋弁慶、八島、壇の浦、お俊伝兵衛、玉川、吾妻獅子、獅子舞

※昭和30年代まで活動

にしんじょ

### 西条

曲目／発願、今海、晒布、安達川、三恋慕、祇園囃子、猿回し、四ツ太鼓、頼光の獅子退治、与次郎猿、青物づくし、新作せめ、吾妻獅子、獅子太鼓、回向唄

※戦後まで継承

きたんじょ

### 北条

曲目／発願、すがらき、妹背山、八兵衛晒、舞晒、サンザラザン、祇園囃子、猿回し、四ツ太鼓、玉川、安達ヶ原、灘汐汲、舞石橋、盛衰記、獅子太鼓、獅子舞、回向唄

※以上(南条・東条・西条・北条)4団体が吉祥院天満宮の氏子に

いしはら

### 石原

曲目／発願、お半長右衛門、鉄輪、本調子(都名所)、手習子、祇園囃子、四ツ太鼓、

手踊り、晒府、太久保踊、娘道成寺、猿廻し、獅子太鼓、しやしやしらが踊、獅子と土蜘蛛、獅子舞、回向唄

※昭和30年代まで活動

しんでん

### 新田

曲目：発願、六段、トチチ、八兵衛、玉川、祇園囃子、四ツ太鼓、山乳母、早蔵、猿廻し、与次郎猿、三恋慕、石橋、さんだわら、獅子、蜘蛛切、回向唄

※記録なし

なかがわら

### 中川原

曲目：発願、六段、おかる、早蔵、たぐり、三恋慕、山姥、四ツ太鼓、祇園囃子、晒布、石橋、鉄輪、猿廻し、八兵衛晒、越後晒、雷踊、回向唄

※記録なし

しま

### 島

曲目：発願、石橋、手踊、りうとう、三恋慕、祇園囃子、四ツ太鼓、松竹梅、みかん船、あづさ、本調子、吾妻獅子、盛獅子、回向唄

※記録なし